第一看護学科　　受験番号　　氏名

第一看護学科

令和6年度推薦入学試験問題　小論文

（二の一）

○次の文章を読んで、「ふつうのもの」ということについてあなたが考えるところを、六百字以内で具体的に述べなさい。

コーヒーを飲むシーンがあったとします。その登場人物がコーヒーを飲んだ、ということだけを観客に伝えたいとき、使う小道具のコーヒーカップは、はたしてどんなデザインのものが良いでしょうか。答えは、ふつうのコーヒーカップです。誰がどう見てもそれがコーヒーカップだとわかるものを選ぶべきです。

ここでもし色や形がとても個性的なコーヒーカップを使ったらどうなるでしょうか。観客の中には、そこから余計な情報を受け取ってしまう人もいるかもしれません。「あの変なコーヒーカップは、何か今後の展開に関係あるのかもしれない」なんて思わせてしまってはいけません。

僕は普段から身のまわりに置くものは、できるだけ「ふつうのもの」にしたいと思っています。余計な装飾に、思考の邪魔をされたくないからです。

それに私物の「ふつうのもの」は、いざというときに衣装や小道具として出番があるかもしれません。何かのロゴが大胆にあしらわれたTシャツなんかは、それだけで意味のある情報になってしまいますから、選びません。

こんなに大事な「ふつうのもの」ですが、世の中には意外と少ないのです。たとえば、「変な車」のアイデアを考えるには「変じゃない車とは何か」がわかってなくては考えられません。ためしに「変じゃない車」つまり「ふつうの車」の絵を描いてみます。誰がどう見ても「車」。しかし、そういう形の車は、実際にはとても少ないのです。これは車に限らず、世の中のありとあらゆるものに当てはまることです。

探すと意外とない「ふつうのもの」。出会いを逃さないよう、いつも気にかけるようにしています。

（「「ふつうのもの」がほしい」『僕がコントや演劇のために考えていること』小林賢太郎　幻冬舎　二〇一四年）